

2019年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、X、YおよびZの罪責について論じなさい(ただし、建造物侵入罪、死体遺棄罪および特別法違反の点を除く。)(配点:100点)

(設例)

株式会社Aは、同じビル内においてゲームセンターBとパチンコ店Cを経営していた。Xは、Bの店長として、Bのゲーム機の管理・点検、店内の巡回・監視、売上金および両替用現金の管理・保管等の業務に従事していた。Bの売上金は、10日に1回の割合でXがC内の事務所の金庫に運んで納め、その後は、Cの従業員が同金庫内のBおよびCの売上金を管理し、適宜、Aの本社従業員が同金庫内の現金を本社に運ぶことになっていた。

Bの従業員であるYは、借金の返済に窮したため、夜中にCに忍び込んでCの金庫内の現金を盗み、もしその際に警備員等に見つかれば警備員等を殴って大怪我を負わせてでも現金を奪うという計画を立てた。ただ、上記のようにXがCに出入りすることがあるため、2018年4月1日、Yは、万一Xに犯行が見つかったら見逃してもらおうと思ひ、Xに上記の計画を打ち明け、数日後に計画を実行するので妨害しないよう求めた。Xは、「ばかなことはやめろ。」と、犯行をやめるように言ったが、Yから、「Xさんには関係ないですよ。」と強く言われ、それ以上、やめるように言わなかった。また、Xは、Yの上記計画を知る者は他にいないと知っていたが、警察やAの本社などへの通報もしなかった。

同月5日午後11時ころ、Yは、無人のCに忍び込み、Cの事務所にある金庫を開け、金庫内にあったBおよびCの売上金である現金100万円を自分の鞆に入れた。そのとき、上記ビルの警備員Dが金庫前にいるYを発見し、「何をしている。」と叫んで、Yに近づき、Yの身柄を確保しようとした。そこで、Yは、Dから逃れるため、用意していた鉄パイプでDの頭部を力任せに2度殴打し、頭蓋骨を骨折する重傷を負わせ、現金を入れた鞆を持って逃走した。その際、Yには、Dに対する殺意はなかった。同日午後11時30分ころ、Dは、上記の傷害により死亡した。

同日午後11時40分ころ、Dの妻であるZが、Dの忘れ物を届けるためにCの事務所を訪れたところ、血を流して倒れているDを発見した。Zは、Dがまだ生存していると誤信するとともに、Dをすぐに病院に搬送して治療を受けさせれば救命は確実に可能だろうと思ったが、普段から夫婦仲が悪かったことから、Dが死亡してもかまわないと思ひ、誰もいないCの事務所にDを放置して立ち去った。